『一生懸命』幻の新座市議会報告第178弾！

たかむらともや

2019年10月31日発行

黒目川と保谷・朝霞線

台風19号は新座市民（日本国民）に何が本当に必要なのかを教えてくれたように思います。どんなに便利な世の中になっても、自分の家が浸水被害にあってしまったら何にもなりません。

地球の温暖化で日本付近の海水温が上昇しています。それが台風19号というスーパー台風を生み出したのです。

新座市では避難したくても避難できなかった方達も多かった筈です。体が不自由の方、妊婦の方、ペットを飼っている方、移動手段が無い方。怖かったと思います。僕自身は黒目川の様子を時間ごとに観測し、天気図も見て「決壊しない」と判断して、避難しませんでした。結果的には正しい判断だったのですが、更に大きな台風だったら、もっと酷い雨だったら、別の判断になったでしょう。

ゲリラ豪雨やスーパー台風に対抗するには、何よりも治水事業が優先されなければなりません。

今、道路幅27mの超大型道路、保谷・朝霞線に400億以上の我々の税金が使われようとしています。先日住民説明会がありましたが、20mを27m幅にする、合理的理由が語られることはありませんでした。大型道路の建設と溢水対策事業。どっちが市民の生命と財産を守る事業でしょう。どっちを優先すべきか考えなくても明らかでしょう。

住民が疑問に感じている超大型道路より、住民の生命と財産を守る溢水対策事業を最優先してすべきです。市と県に一緒に訴えていきましょう。

台風19号の後の川掃除には小さな助っ人が参加してくれました。僕らは台風19号に耐えて氾濫しなかった黒目川に、感謝しながら掃除しました。

たかやんのプロフィール

1954年、港区青山生まれ。
本名　たかむらともや
新宿区立西戸山小中学校卒。
新宿区百人町では有名な「超悪ガキ」だったが、友達と担任の河合隆慶先生に救われる。

都立石神井高から北大に進み大学3年の冬、突然「教師」を目指す。昭和52年4月新設校新座五中に赴任。五中・六中・二中で21年間担任を続け幻の学級通信「一生懸命」を毎日書き続ける。

趣味はテニス・読書・音楽・川掃除・駅立ち・英語・トレーニング・子ども達との学び。

好きな言葉は「継続は力なり」「経世済民」

好きな政治家はホセ・ムヒカ、バーニー・サンダース　田中角栄、翁長雄志、山本太郎。好きな女優は新垣結衣、綾瀬はるか、ハン・ヒョジュ。イ・ジュウ。

山本太郎に応援はされないが、山本太郎を本気で応援すると心に決めている。

左の写真は溢水対策（治水）事業の先進市、西宮市を視察した時の写真。このシールドを使って地下に巨大な貯水施設を建設しているのです。

上の写真は六中で3年間担任し、一緒にテニスに燃えた一久と奥さんのみづほちゃんです。

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

中高生の君達へ

駅立ちを初めて15年程になります。駅立ちは人生に似ています。色んな人が僕の前を通り過ぎていきます。100人単位でスルーされることなどザラです。その時に考えることは、次にこの「一生懸命」を受け取ってくれる人の笑顔です。
僕がこの「一生懸命」を差し出すのは「いい電波」を出している人です。そう、人は「電波」を出しているのです。整った顔をしていても、「いい電波」を出してない人には、この「一生懸命」を差し出さないようにしています。新座市民であるかどうかは関係ありません。都民であっても、「いい電波」を出している人には読んで欲しいと思っています。

それは子ども達であっても同じです。どんな子にも「おはよう！」「がんばれーっ！」と声は掛けますがこの「一生懸命」を差し出すのは「いい電波」をだしている子だけです。僕は「いい電波」を出している人間が世の中を良くしていく、そう信じているのです。

これからの日本を変えていくのは若い人達です。多くの中高生がこの「一生懸命」を手にしてくれるのは嬉しいことです。新座市民であろうがなかろうが、有権者であろうがなかろうが、どうでもいいのです。若い世代、特に中学生、高校生達が政治に関心を持って、少しでも日本を世界を良くしてくれることを期待して、この「一生懸命」をこれからも手渡していきたいと思っています。

教師を目指す人へのメッセージ７

10月17日に文部科学省が発表した2018年度の不登校小中学生の数は16万4528人でした。

そして、小中高生の自殺者は332人と激増しています。学校が安心できる空間であれば、不登校にはなりません。前川喜平氏が東京新聞のコラムで書いているように、不登校は「子どもの学校への不適応」ではなく「学校の子どもへの不適応」と考えるべきです。子ども達を学校の枠にはめようとするのではなく、学校を子ども達の多様性に適応させる柔軟さがこれからの学校には必要なのです。

「○○学校スタンダード」や「○○Basic」は子ども達を学校の枠にはめようとしているいい例です。

一方、自死を選択する子達は家庭にも学校にも居場所のない子達です。昔も今も、大変な家庭はあちこちにあります。学校は家庭のセーフティーネットになっていなければいけないということです。

若いあなた方は「そんな馬鹿な！」と思うかも知れませんが、子ども達の命を守るにはそうでなければなりません。「先生」という仕事は、子ども達の命を守る仕事なんです。それに気がつかないと、神戸の学校のような事件が起きます。

どうか、子ども達の外見ではなく、子ども達の表情に敏感な「教師」になってください。どうか、内申を振りかざすのではなく、子ども達の「相談」に乗れる教師になってください。どうか、決まりを守る子どもを育てるのではなく、決まりにも疑問を感じられる子ども達を育ててください。教師の給料は経団連やグローバル企業が払っている訳ではありません。言われたままに安い給料で働くのが当たり前、そんな子達を育てないようにするのも教師の仕事なのです。

僕らの時代よりも、学校は息苦しくなってきているように感じます。先生達の笑顔が少ないのです。
教師の過重労働が問題になっています。特に中学校では残業時間が月に100時間を超える「過労死ライン」が当たり前になっているのです。

僕自身、月に200時間超の残業が当たり前という時期が10年以上ありました。朝練、朝勉、午後練夜勉・・・・子ども達といつも一緒にいると、そういうことになります。ただ、机に向かっていた訳ではないので、楽しくて楽しくてしょうがありませんでした。
月に200時間超の笑顔の残業でした。（笑）

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください ｍ(_ _)ｍ